

# 山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームリバーヒル長井
(ユニット名)	あやとり
所在地 (県・市町村名)	山形県長井市寺泉 3061-21
記入者名 (管理者)	梅津 貞子
記入日	平成 20年 9月 24日

# 山形県地域密着型サービス自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員の総意で、入居者の暮らしを支えていけるようつくりあげている。地域との関係強化を謳った理念としている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	迷った時の道しるべとなるようホーム内に明示し、常に意識して取り組んでいる。職員採用時には理念を伝え、会議の際にも確認している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族へはグループホーム便りで発信し、地域へはミニデイサービスでお話しをさせていただいた。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	住宅地区から離れているため、隣接する施設を隣近所として、利用者同士声をかけあったり、一緒にお茶を飲んだりしている。近隣の畑を所有している方から、野菜や花を時々いただいている。	○ 近くのミニデイサービスに働きかけ、一緒に活動に参加できるように体制作りを進めている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地区行事(ヤハハエロ)に参加したり、文化祭への作品展示をすることで交流を図っている。職員がミニデイサービスに出向いたり、公民館事業の草むしりに参加している。地元地域周辺のゴミ拾いや神社の落ち葉拾いをボランティアとして実施した。	○ 地域の夏祭りや運動会などにも参加させていただきたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	公民館に出向き、認知症についての話をさせていただいた。母体と連携し「認知症の理解について」家族介護教室を開くと共に、民生委員との話し合いで「家族が認知症になったら」の寸劇を披露した。実習生の受け入れも積極的に実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で実施し、介護の質の向上に努めている。又、外部評価の結果を踏まえ、不備な点については改善に向けて検討し、実践につなげるよう努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で話し合われた内容については、職員全員が共有するようにしている。又、会議で得られた情報をもとに、地域の方との交流につながりもいる。評価についても報告し、その結果に対する取り組みの内容についても報告を行い、意見をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターへ法人から職員が出向しており、情報を得て、又、当方からの情報伝達も行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	所内で権利擁護や高齢者虐待についての研修を実施した。機会を設けホーム長より説明したり、認知症実践リーダー研修に参加した職員より伝達してもらっている。職員の中に成年後見人の有資格者がいるため、必要時は協力してもらえ体制にある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内で権利擁護や高齢者虐待についての研修を実施した。スタッフ会議などで過去の事例をもとに、共に考える機会を設けている。所内の新人教育カリキュラムにも入れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を十分とり、内容説明をするとともに、理解が得られるよう配慮している。又、利用者や家族の意向も聴かせていただけるよう配慮している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と苦情解決第三者委員会との話し合いの場を設定している。利用者職員は話しやすい良好な関係にある。	○ 利用者が意見や思いを表出できる環境創りに配慮している。又、利用者からの気づきは職員全員が共有できるよう話し合いを行い、介護に反映するようにしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	機関誌により、利用者の暮らしぶりを紹介、発送している。個人の健康状態や生活については、家族面会時や行事に参加していただいた時などを利用して報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母体と共にアンケート調査を実施し、意見をいただいている。いただいた意見に対しては、真摯に受け止め対応させていただくとともに、全職員がその内容を検証し、今後活かしていくようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議に出席し、事業所の決定事項について伝達すると共に、職員の意見を聞く機会を持ち、必要時には業務に反映するようにしている。運営者や管理者はいつでも意見や要望を聞く準備があることを職員に伝えている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の日々の暮らしに合った勤務態勢を組んでいる。ホーム長は状況に応じた対応ができるように通常のシフトには入れていないため、利用者の状態に応じた柔軟な体制がとれるようになっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化している。馴染みの関係が作れるよう、職員異動時の引き継ぎには十分時間をかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県の実践者研修やリーダー研修・GH協議会の新人、中堅研修に参加している。又、法人の教育委員会主催の学習会にも参加している。現場ではその都度学びの場としている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県GH協議会主催の交換実習を行った。又、置賜地区GH協議会ので2ヶ月に1回程情報交換や学習会を実施している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員レクリエーションや職員旅行で気分転換が図れるよう工夫している。日常や面談時職員のストレスや悩みを把握するようにしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者やホーム長から、職員の状況を聞き状況把握に努めている。定期的に職能評価を行い、職員のがんばりを認めている。時々利用者や職員と昼食をともにし、話をする機会をも設けている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>希望を受けた段階でご自宅へ訪問し、本人と直接話をするこ とで、心身の状態や想いを受けとめるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けるときは、ご家族が自由に話ができるよう配慮し、その想いをしっかりと受けとめ、今後の方向性についてともに考えるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって最善の支援は何かを見極め、母体の総合相談センターとも連携を取りながら、必要なサービスの提供を心がけている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にする中で、喜怒哀楽を共有したり、職員自身が元気をいただく事も多い。利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、お互いに感謝する気持ちを伝えている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族、職員が一体となってGHという家の屋台骨を支えているといった意識で関わっている。その時々での情報交換を丁寧におこないながらお互いの理解を深めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者や家族の想いを大事にしながら、外出を勧めたり行事に誘ったりと、良い関係が継続できるよう支援している。面会時には自室でゆっくりできるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の仕事仲間への訪問や、自宅近隣の方からの訪問がある。数名の方が、行きつけの理容院や美容院に行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話しをしたり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う利用者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係が円滑になるよう配慮している。又、職員が仲立ちすることで、話が楽しく続くようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や施設入所となった方には、時々会いに行っている。又、母体老健に入所された方には、入居者と共に会いに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉・表情・行動から、何を思い何を望んでいるのかを感じ取り、利用者の心に添った支援ができるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に自宅訪問のおり、本人、家族から聞き取りをしている。入居後も折に触れて、本人や家族から生活ぶりなどについて話をしてもらっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの暮らしの流れを理解し、尊重するようにしている。「こうすれば出来るかもしれない」の視点を大事にし、気づきを積み上げていくよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その時々の利用者の状態や想いをくみ取り、課題を設定しながら、家族の意向を確認した上で、カンファレンスを行い計画作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画と照らして、現時点の利用者や家族のニーズがずれている場合は、終了期間前であっても検討見直しを行っている。介護計画の実施状況・効果などを評価し、必要時には変更している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、生活の様子、介護計画の実施状況、健康状況を毎日記録し、申し送りで情報を共有している。又、記録を基に介護計画の評価と見直しを行い、次の介護計画に反映させている。		
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	/		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	ボランティアの方に、畑の手入れや作物の収穫を一緒にしてもらっている。又、企業の職員ボランティアにより、事業所内外の環境整備を手伝ってもらった。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	隣接の老健の理美容を利用するための支援を行っている。地域が主催する文化祭へ作品を出展をさせていただいた。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加することで、行政情報、地域情報が得やすくなり、協力関係を作りやすくなっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診の際は日頃の状況を記入した連絡票を持参し、かかりつけ医には受診結果や指示を記入してもらっている。家族同行受診となっているが、不可能な時は職員が付き添っている。状況により、訪問診療を依頼している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人に合った声かけや対応をしており、特に排泄などのデリケートな介護については、他の人の目に触れないような工夫をしている。プライバシー保護に関しては事業所内研修やミーティングなどで確認しあっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できること・できないこと・工夫すればできることなど、一人ひとりの力に合わせて、利用者が自分で決める場面をつくり、自己決定を尊重した関わりをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。その時々利用者の気持ちや体調に配慮しながら個別性のある支援を心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日の衣装は利用者を選んでもらっている。選べない方については、本人の好みに添って職員が選んでいる。日頃からおしゃれに興味のある利用者には、お化粧の手伝いをしている。行きつけの美容院には家族の協力を得て行ってもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの料理を聞いて献立を作成している。一緒に買い物に行ったり、畑で野菜を収穫してきては一緒に調理をしたりしている。職員は利用者と同じテーブルで同じ食事をとっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は利用者一人ひとりの嗜好を理解しており、その人に合った対応をしている。行事や外出の日などにはお酒も楽しんでもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表により排泄パターンを知ることで、個々に合った誘導をしている。尿意のない方には、時間をみてトイレで排泄できるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やタイミングに合わせ、夜間も含めての入浴支援をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を促し、その人に合った生活リズムとなるようにしている。眠れない方には、温かい飲み物を提供したり、お話しをするなどの配慮をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節毎の習わしを暮らしの中に取り入れている。生活歴や日々の暮らしの中から、その方の楽しみ・役割・出番を見だし、力が発揮できるよう努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には少額を入れた財布を持ってもらっている。事業所が預かっている方には、買い物に出た際、支払ってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には庭に出てお茶会、畑での作物収穫、周辺の散歩などを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりの希望に添った外出は行ってはいるが、頻度は少ない。	○	利用者の希望に叶った外出の機会を家族やボランティアの協力を得ながら実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を出すための支援をしている。希望に応じて電話が出来るようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも都合の良い時に来ていただけるよう、訪問しやすい雰囲気作りをしている。面会時には、気兼ねなくお話しができるようプライベートスペースを使い、ゆっくりしていただいている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会や資料などで学び理解している。職員間で話し合い、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	居室には鍵をかけておらず、自由に出入りができる。職員数の少ない夕方から早朝は施錠するが、日中は鍵はかけていない。利用者が外出しそうな気配を感じたら、さりげなく声をかけたり一緒について行くなどの対応をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はいつも同じ空間にいて、さりげない見守りをしている。夜間は、物音や気配を感じられる位置で待機している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要な場所に物の配置をしており、利用者の状況に合わせて見守りをしている。毎日、危険物管理を日報に上げ、数の管理をしている。洗剤の在庫や薬品に関しては、鍵のかかる場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット、事故の報告書を作成し、事故を未然に防げた理由、事故原因から今後の予防までを記録し、職員の意識共有と事故に対する感性を養っている。近隣の事業所とともに、行方不明時のマニュアルを作成し、協力体制を組むことになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の職員とともに消防署に出向き、事故発生や救急時の対応について訓練を実施している。職員採用時には救急救命士による学習会を実施している。マニュアルの整備をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。消防署の指導で年2回訓練を実施している。事業所独自にも1~2ヶ月毎に実施している。消防設備点検については規定通り実施。冬期間の避難経路確保についても除雪などをおこなっている。	○	定期的な訓練を実施することで、いざという時に冷静な行動がとれるよう、今後も取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その人らしく暮らすためには様々なリスクも伴う事を、家族と共に確認し理解を得ている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の日頃の様子を把握しながら、いつもと変わった体調面での気づきがあれば、すぐ医療連携に相談し、助言を得ている。又、その記録を行い、情報共有している。特に健康面での経過観察が必要な利用者は、バイタルチェック表を使用し状態把握している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを見ながら、薬の仕分け作業を行っているが、事故につながらないようにダブルチェック体制としている。処方内容が変更されたり、本人の状態に変化がみられた時には、その内容を記録し看護師やかかりつけ医と連携がとれるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食材や乳製品・水分補給、散歩やラジオ体操、日頃の家事活動への参加を促し、自然排便となるよう心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後その人にあつた声かけを行い歯磨きを促している。周2回ポリデント洗浄を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な利用者の食事・水分チェックをしている。本人の嗜好に合ったメニューを入れたり、献立を管理栄養士に確認してもらい、助言してもらっている。栄養担当者1名を配し、月1回栄養士から指導を受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事故防止委員会で感染症のマニュアルを作成している。感染症の発症時期や発症時には委員会からの指導・指示がある。県内の感染症発生動向調査を基に事業所内に情報発信している。職員、利用者ともにインフルエンザワクチンの予防接種を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日まな板やふきんはハイター消毒し、点検表に記録している。畑があり、旬の野菜を収穫するなど、新鮮な食材を使用している。周2回の買い物前には、冷蔵庫清掃を行い、残り物を点検している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭には常に季節の花があり、玄関前にはプランターを置き、和める雰囲気になっている。車いすで出入りができるようにスロープや手すりがあり、庭先で話ができるよう日陰に椅子を置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系の蛍光灯を使用。季節を感じられるような飾り付けをしたり、神棚・仏様・こたつが常に視野に入る場所にある。広い空間を棚やすだれで仕切り、落ち着けるよう工夫している。食堂と台所が一体となっているため、生活感を感じることができる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下、居室などにソファを置き、思い思いの場所で過ごしたり、仲の良い人を居室に招き入れたりして過ごしている。一人ひとりの居心地の良い場所がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた日用品や椅子、思い出深い写真などを飾り、居室で落ち着ける空間づくりをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日2回温度・湿度をチェックし、換気や温度調整をしている。冬期間は加湿器を設置し乾燥防止に役立てている。居室には空気清浄機がある。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンクを利用者の使いやすい高さにしたり、段差のある和室を設けその人の状態に応じた使い分けが出来るようになっていく。台所からは食堂から居間、玄関に通じる廊下が見渡せ、利用者の動きを見守っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には利用者の写真や個別の飾り、居室内は9室全て異なった内装とし、他者の居室と識別しやすいように配慮している。トイレの表示も大きくし、わかりやすくしている。成功体験を積み上げられるよう関わっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に利用者と共に花を植えたり、夏には庭で流しソーメン、すいか割などを行い楽しんでもらった。居室に面した縁側があり、日光浴ができるようになっている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が元気に過ごされていた頃していた作業を、グループホームの生活に取り入れている。特に季節を感じ取ることができるように、茎たち干し・わらび漬け・笹巻き・梅干し・じんだん作り・干し柿等の作業を一緒に行っている。家族参加の行事の際は、利用者と家族が触れ合いながら馳走作りや会場準備ができるよう、職員は黒子に徹している。又、グループホームの庭を花いっぱいにし、利用者が明るい気持ちで過ごしていただけるようにしている。